

# した

## 年スタート

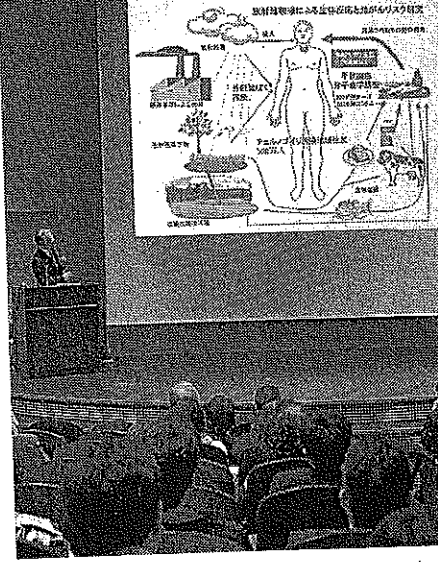
「信春様は、同校の友達ともまた一緒に生活したい」と、友達を忘れられない様子ながらも前向きな表情を見せた。

日下君の父龍一郎さん(46)は「精神的にめいっていた家族に笑顔を見せ、支えてくれたのが龍二郎。転入が決まり、まずはひと安

同市江迎町の市立猪調小では、福島県南相馬市から家族らとともに同校区域に避難してきた5年の日下龍二郎君(10)と3年の高橋愛斗君(8)が転校生として式に出席。宮本隆治教頭が日本地図で福島県の場所を示しながら全校児童に紹介。2人は「南相馬市から来ました。よろしくお願ひします」。

式後は、ほかの生徒と一緒に楽しく話し、元気に歌を練習した。日下君は「友

放射線の基礎知識や福島第1原発の状況などの説明があった報告会＝長崎大坂本キャンパス(大柳格撮影)



「楽しんでいる様子にはっとした」と話した。

## 30キロ圏外でも高い放射線

### 長崎大・山下科長ら 現地活動を報告

東日本大震災の支援で現地に派遣されていた長崎大医歯薬学総合研究科の山下俊一科長と同大熱帯医学研究所の山本太郎教授の報告会が6日、長崎市坂本1丁目の同大坂本キャンパスで活動内容を報告した。

山下科長は福島県の要請を受け「放射線健康リスク管理アドバイザー」として活動。先月27日から今月2日まで現地に入り、被災者の救急医療や放射線医療に関する相談のほか、現地の自治体や住民向けの講演会を開いた。

山下科長は政府が原発から半径30キロ圏内に自主避難を呼び掛けていることについて「原発から30キロをはるかに超える地点でも風向きや地形の影響で高い放射線量が測定されている。同心円状ではなく、(村の大半が)30キロ圏外にあるもの」高い値が出ている飯館村などの住民は避難すべきだ」と指摘した。

校。緊張した表情はすぐにほぐれ、ほかの児童らと手と遊ぶのが楽しみ」と記した。(石田慶介、板倉聖教)

(山里悠太郎) 9日から救援物資第2次を受け付け

島原市などをつくる「東北地方太平洋沖地震災害支援島原実行委員会」(委員長・木下康博市社会福祉協議会長)は9日から、被災地向け救援物資の第2次受け付けを始める。

今回は食料品で▽缶詰▽レトルト食品▽カップめん▽お菓子類▽地元産品の5品目。いずれも未開封で消費期限3カ月以上。18日まで市内7地区の公民館で受け付ける。時間は午前9時～午後3時。

問い合わせは同市福祉保健総務グループ(電095

諫早市が中間 諫早市は6日、東口震災への義援金の中間を発表した。3月14日4日までの約3週間、民と市職員から計2万6757円が集まり、自治会集計分と合わせて共同募金会に送る市民から寄せられた物資は段ボール42で紙おむつや水、コが多かった。(豊竹

要介護者約100、福岡で受け入れ

関東地方の社会福祉法人の(福岡市)は6日、大震災で関東地方に要介護者を、内介護老人福祉施設に入れる方針を明らかにした。受け入れは1度で、福岡市まで送料搬送する。ヘル

# 被災学生受け入れへ

## 長崎大 学費免除、住居も提供

長崎大は6日までに、東日本大震災で被災した大学に通う大学生と大学院生を、特別聴講生または科目等履修生として受け入れる、と発表した。同大の講義を受け認定されれば、在籍する大学の単位を取得できる。学費を全額免除し住居も無料で提供。受け付け

は28日まで。

震災で授業が開講できない大学の在学者や、避難生活で通学できない人が対象。公私立を問わず関東以北の大学を中心に受け入れる。研究を続けることが困難な教授らも可能な限り受け入れる。

現在17人分を確保。希望者が上回る場合は県や市と連携し、受け入れ態勢を整える。同大は「必要書類なども簡素化し、スムーズに受け入れたい」としている。

問い合わせは同大学生支援部教育支援課(電095・819・2075)。(後藤洋平)

## 安全基準見直しを

福島「玄海原発を考える会」 松浦市長らに申し入れ



原発の安全基準見直しの働き掛けなどを、友広市長に求める川上副会長(右)ら＝松浦市役所

東日本大震災でして、6日後9時、氏名が判明したのは次原の発表による。原住地別一部は死亡場所

▽若手県 磯田愛子 富岡(79)、菊池エミ子 五郎(79)、木下優子(津子)(41)、小林強実(亀久雄)(82)、佐々木金左(木利平)(33)、佐